

Asahi

2024年3月1日

アサヒグループの水の取組み



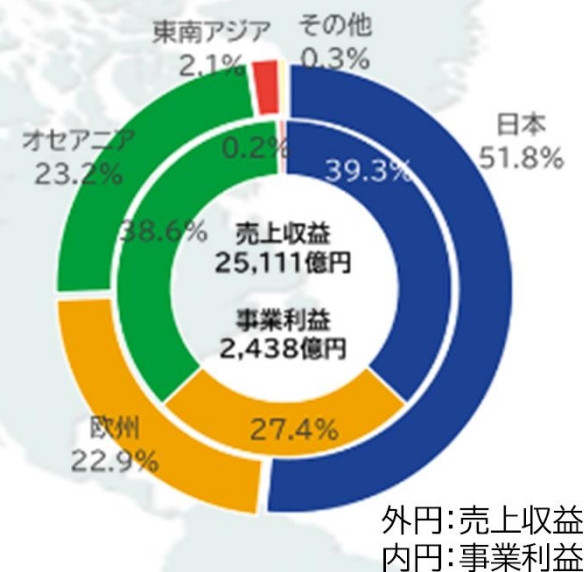
1. アサヒグループの会社概要とアサヒグループ経営理念
2. サステナビリティ戦略及びガバナンス
3. アサヒグループ水の取組み事例
4. サステナビリティ情報開示

1. アサヒグループホールディングスの会社概要と アサヒグループ理念

アサヒグループホールディングス 会社概要



2022年売上収益・事業利益（セグメント別）

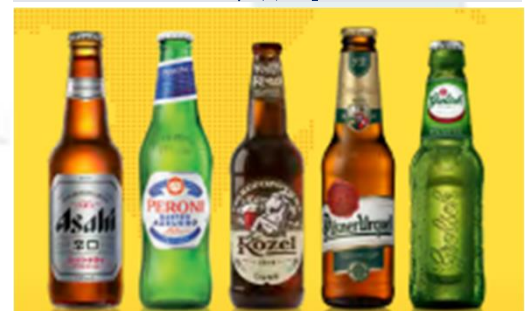


- ◆ 商号: アサヒグループホールディングス株式会社
- ◆ 設立: 昭和24年(1949年)9月1日
※2011年7月に、純粋持株会社化に伴い、「アサヒビール株式会社」より商号変更
- ◆ グループ従業員数: 29,920名(連結)
- ◆ グループ会社数: 連結子会社:208社 持分法適用関連会社:25社

日本



欧州



オセアニア



東南アジア



グローバル4極体制



欧州

👤 10,430

🏠 17



日本

👤 13,221

🏠 33

東南アジア

👤 1,924

🏠 5

オセアニア

👤 3,901

🏠 12



👤 従業員

🏠 工場

(2022年12月31日現在) 5

アサヒグループ理念 「Asahi Group Philosophy」



©ASAHI GROUP HOLDINGS. ALL rights reserved.

Asahi
Asahi Group Philosophy

Our Mission 社会における使命・存在価値

期待を超えるおいしさ、
楽しい生活文化の
創造

Our Vision アサヒグループのありたい姿・目指す姿

高付加価値ブランドを核として成長する
“グローバルな価値創造企業”を目指す

Our Values ミッションを果たし、ビジョンを実現するための価値観

挑戦と革新 最高の品質 感動の共有

Our Principles ステークホルダーへの行動指針・約束

すべてのステークホルダーとの共創による企業価値向上

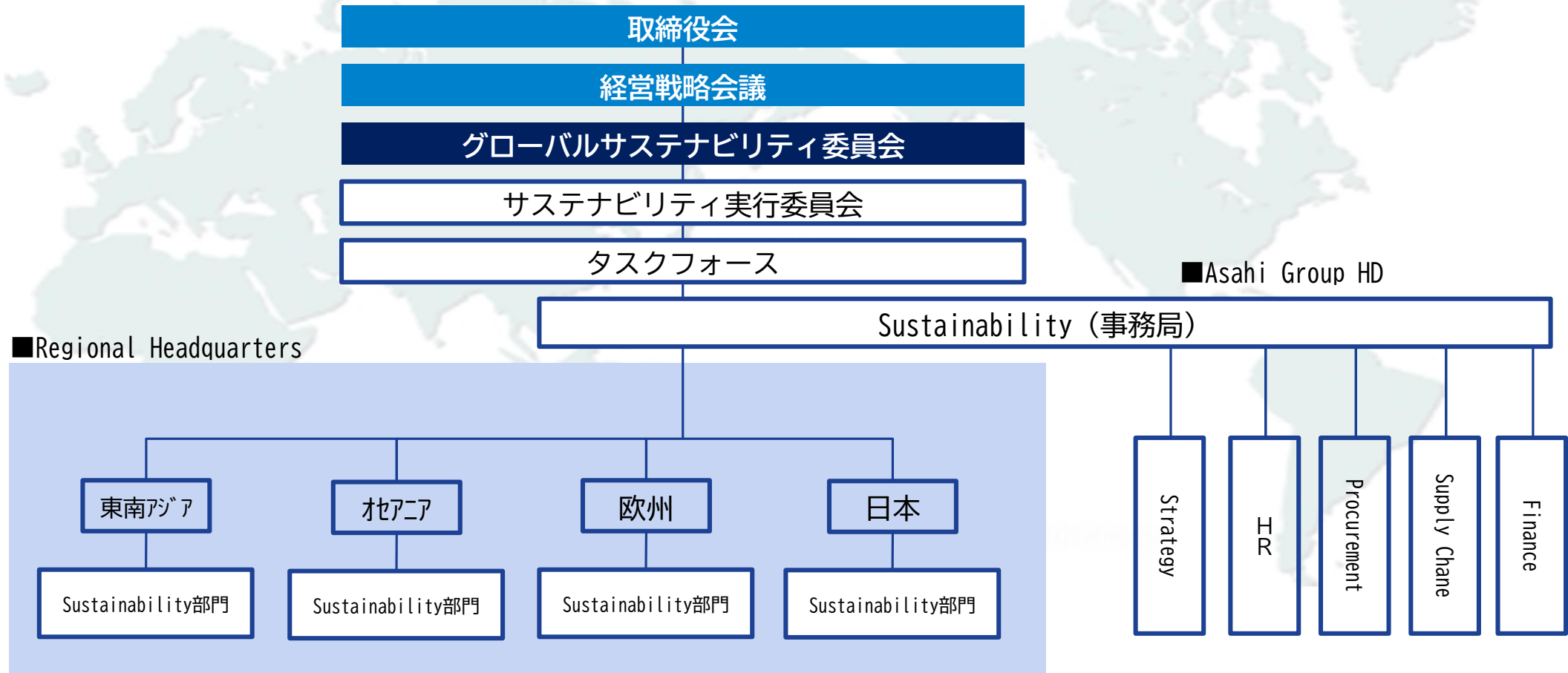
顧客: 期待を超える商品・サービスによるお客様満足への追求
社員: 会社と個人の成長を両立する企業風土の醸成
社会: 事業を通じた持続可能な社会への貢献
取引先: 双方の価値向上に繋がる共創関係の構築
株主: 持続的・利益成長と株主還元による株式価値の向上



2. サステナビリティ推進体制と環境ビジョン

サステナビリティ推進体制

グループ一体となった推進体制



*タスクフォースは、重点テーマごとに設置

「アサヒグループ環境ビジョン2050」

2050年の世界のありたい姿



気候変動

Beyond
カーボンニュートラル

脱炭素社会に向けて、事業の枠を超えた社会全体におけるカーボン排出量が削減され、生物多様性が保全された世界

容器包装

容器包装廃棄物のない社会

使用される容器包装の資源利用が最小化され、使用後の容器包装が循環しており、特に海洋生態系が保全された世界

農産物原料

命を育む持続可能な農産物原料

環境配慮、人権尊重、地域活性化が実現された農業が行われ、安定的な生産と生態系の維持が両立した世界

水資源

人と自然のための健全な水環境

健康、生活環境、生物多様性が保たれる適切な水質・水量、土壌の機能が維持されており、自然災害へのレジリエンスが向上した世界

「アサヒグループ環境ビジョン2050」

ありたい姿の実現に向けてアサヒグループが取り組むこと

私たちアサヒグループは、バリューチェーンを通じて資源の利用の最小化と循環の最大化に努め、ステークホルダーと戦略的パートナーシップを構築することでシナジーを創出し、2050年の世界のありたい姿の実現に向けて取り組んでいきます。

気候変動	容器包装	農産物原料	水資源
再エネの早期導入完了	資源利用の最小化	環境・人権に配慮した農産物調達	水使用量適正化による水循環促進
燃料の脱炭素化推進	環境配慮素材の利用	微生物の活用、副産物の循環利用	流域連携による協働の仕組み構築
バリューチェーンのCO ₂ 削減と生態系の保全の両立	廃棄物が発生しない商品の開発	土壌改善による生態系の保全	適切な水質・水量の維持による生態系の保全
削減・吸収・回収の技術開発・展開	クローズドループ構築による海洋生態系の保全	農家支援による地域活性化	水ストレス地域における水アクセスの改善

3. アサヒグループの水の取組み

水の取組みテーマにおける KPI

水資源の使用量削減・効率的利用

2030年までに水使用量の原単位を
3.2m³/kl以下に削減

水リスクの詳細把握・対応

グループ内の主要な酒類飲料製造拠
点における
水リスク調査を2025年までに実施
(その後5年に1回定期実施)

水使用量原単位の推移

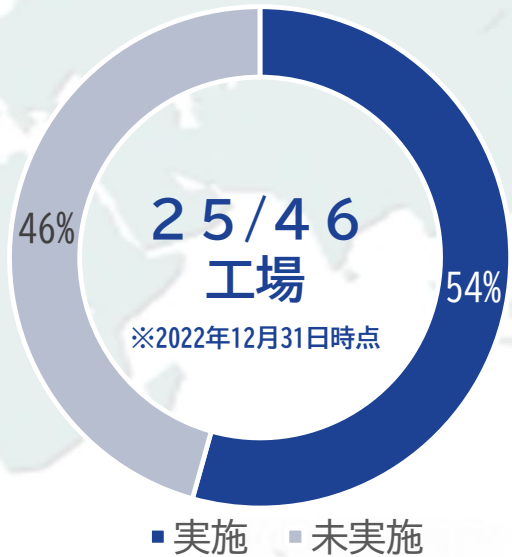


水使用量削減に向けた取組み例

- 豪州のカールトン&ユナイテッド・ブルワリーズ社ヤタラ工場において再生水の生産を可能とする水リサイクル施設を建設
- 廃水进行处理して再生水を生産
- 再生水を蒸気発電機、製造タンクの洗浄、加熱殺菌用の蒸気などに利用



水リスク調査進捗



2025年までに全工場実施

調査項目

Risk Category

- A ガバナンス
 - A1 ガバナンス
- B 持続的な水量の確保
 - B1 水資源の不足(現在)
 - B2 水資源の不足(将来)
 - B3 湯水
 - B4 水供給事業者の施設の老朽化
 - B5 水供給事業者の取水施設の風水害(洪水)
 - B6 水供給事業者の経営状況
 - B7 水供給事業者の事故・トラブル(地震や停電・火災など)
 - B8 独自水源の水資源量
 - B9 独自水源施設の構造
 - B10 取水に伴う周辺影響
- C 持続的な水質の確保
 - C1 公共用水域の水質(現在)
 - C2 公共用水域の水質(将来)
 - C3 水供給事業者の水質
 - C4 取水に関する事故・トラブル
 - C5 排水水質
 - C6 下水処理場の風水害(洪水)
 - C7 下水処理場の経営状況
 - C8 独自水源の水質
 - C9 独自水源における水質に関する事故・トラブル
- D WASH
 - D1 水アクセス
 - D2 水衛生
- E 風評
 - E1 訴訟・報道
- F 規制
 - F1 取水規制
 - F2 排水規制
- G 災害
 - G1 地震
 - G2 風水害(洪水)
 - G3 火山
 - G4 土砂災害

社有林による水涵養(日本)

自分たちの手で、水を豊かに蓄える森へ

- 80年にわたって、社有林「アサヒの森」を守り育てる
 - 2021年からの「アサヒの森」の水涵養量は、年間1,101万m³となり、国内8工場の取水量を上回る
- ※(2021年国内8工場水使用実績963万m³)
- 「30by30アライアンス」にアサヒグループとして賛同。環境省実証事業において、「アサヒの森」の15の山の一つである甲野村山が「自然共生サイト」に認定



所有面積は2,165ヘクタール(東京ドーム461個分に相当)

Water On Wheels(オーストラリア)

工場のリサイクル水を、干ばつに苦しむ農家の人々に

- 干ばつで打撃を受ける、オーストラリアの農業
- ビール工場の醸造工程で出た水に特別な処理を施し、農家の皆様へ
- 土地とのつながりを失いかけた人たちが営みを取り戻し、前を向くきっかけを



水源地の森 保全活動

水源地の森の保全活動を社内サイトで紹介。活動後のレポートも掲載。

- 募集は外部サイト 日本フィランソロピー協会の「ボランティアウェブ」を活用して実施。

4. サステナビリティ情報開示

サステナビリティ情報開示

■ サステナビリティWebサイト



<https://www.asahigroup-holdings.com/sustainability/>

■ サステナビリティデータブック



<https://www.asahigroup-holdings.com/sustainability/pdf/databook/databook.jp.pdf>

■ 統合報告書



<https://www.asahigroup-holdings.com/ir/library/annual.html>

■ TCFDレポート



<https://www.asahigroup-holdings.com/ir/library/annual.html>